



2022年度
四日市コンビナート
2050年カーボンニュートラルに向けた検討報告書

令和5年1月12日
四日市市 商工農水部 工業振興課

四日市臨海部コンビナートは、昭和30年代に国内でも有数の石油化学コンビナートとして形成され、第1コンビナート(塩浜地区)、第2コンビナート(午起地区)及び第3コンビナート(霞ヶ浦地区)の3箇所に分けられ、化石燃料からエネルギー関連品、製品の素材・原料等を製造し市民生活や産業活動の根幹をなしている。

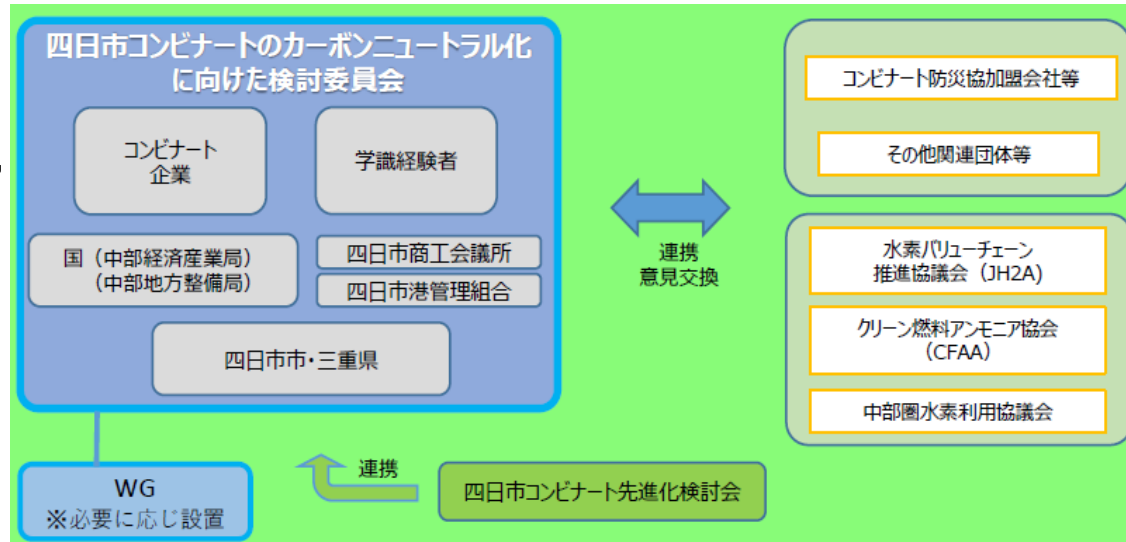
一方、エネルギー関連品や製品の素材・原料等の製造プロセスにおいて多量のCO₂を排出している。これを裏付けるように、第4期四日市市環境計画（令和3年3月策定）によると、2017年度に本市で排出されたCO₂の総量約1700万tのうち、約88%の約1500万tが産業部門から排出されている。

近年の気候変動問題を背景に、2020年10月に当時の首相である菅総理が「カーボンニュートラル宣言」を行う等、企業としてカーボンニュートラルを実現することが世界的潮流となり、本市臨海部コンビナートでは事業構造の大幅な変革が求められることとなった。

大量のCO₂を排出する本市臨海部コンビナートが、時代の変化に迅速に対応しなければ競争力低下を招くとともに、立地企業の統合や事業所の統廃合等による既存企業の撤退などの恐れがある。

本市臨海部コンビナートが、本市の産業基盤として永続的に維持・発展していくためには、カーボンニュートラル社会の実現に貢献するコンビナートを目指すとともに、これから発生する諸課題の解決に向けて想定される様々な投資を呼び込み、新エネルギーの利活用、カーボンニュートラル社会に貢献する素材供給など、新たな産業の芽吹きを生み出す必要がある。

この目標達成に向けて、企業、国、三重県、本市及び関係機関と連携を図るとともに、専門家の知見を取り入れながら将来の四日市コンビナートのあるべき姿や方向性を打ち出していくための検討の場が必要との認識から、令和4年3月に「四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会」を設置したものである。



「四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会」における検討結果は、本市の将来都市像や基本目標を示す総合計画に明記されている「新産業の創出と既存産業の活性化」に向けて、四日市臨海部のコンビナートがカーボンニュートラル社会に貢献するコンビナートを目指すために、四日市コンビナートの現在のポテンシャル等を分析し、中長期的な視点で、コンビナートのあるべき姿とその実現に向けた企業と行政の取組むべき事項を示すものである。

カーボンニュートラル社会に貢献するコンビナートを目指すためには、四日市臨海部のコンビナートに立地する企業や関連企業の方々と行政が共通認識を持って、協力して取組みを推進していく必要がある。

また、「四日市市環境基本条例」の基本理念に則り、「快適環境都市宣言」の理念を継承する「四日市市環境計画」や四日市港管理組合が策定する「四日市港カーボンニュートラルポート形成計画」と整合を図りながら、取組みを推進していく。

四日市市総合計画

YOKKAICHI 四日市市総合計画 Yokkaichi City Master Plan 2020～2029

2 産業・交流拠点都市

東海地域をリードし、地域社会のイノベーションを誘発する

産業・交流拠点都市

第4次産業革命の到来とスーパーメガリージョンの形成を機に、全国有数の産業都市四日市が、さらに飛躍する時がきました。

基本目標

都市機能の集積と高度化、近未来技術の社会実装を進め、人の交流が仕事や魅力を生み出す好循環のまちづくりを目指します。

3 環境・防災先進都市

まちの未来を守り、将来の市民にバトンをつなぐ

環境・防災先進都市

公害の歴史と教訓から学び、将来にわたって環境先進都市であり続けるために、臨海トラフ地区等の大規模災害へ備えることは、今を生きる私たちに課せられた使命です。

基本目標

豊かな環境を基本とした都市発展と防災力強化を両輪に、快適性と安全・安心が高い水準で保たれたまちづくりを目指します。

第4期 四日市市環境計画

環境問題は「自分ごと」
みんながやる (住み続けられるまち・四日市)

四日市港 カーボンニュートラルポート 形成計画

↑ 整合 ↓

四日市コンビナートのカーボンニュートラル グランドデザイン

この大枠の戦略を軸に、各分野での具体的な取組を推進していく。

- 原料・製品のバイオマス化**
 - バイオマス等の利用を拡大する
 - 農業化学製品の供給
 - 資源の循環
- CO2回収・利用**
 - CO2分離・回収・輸送
 - CC2活用・CO2活用
 - 資源の活用
 - LHG等を活用したエネルギー供給
- 四日市コンビナート中期計画の特性を活かしたカーボンニュートラルを推進**
 - SAF製造・実用化の推進
 - SAF
 - SAF製造に必要となる原料の確保
 - SAF製造に必要となる原料の確保
 - SAF製造に必要となる原料の確保
- コンビナート設備の共有化**
 - コンビナート設備の共有化
 - コンビナート設備の共有化
 - コンビナート設備の共有化

コンビナート内外に様々な強みがあり、カーボンニュートラルの観点でも多くの可能性・ポテンシャルを有している

強み

カーボンニュートラルに対するプラス要素やポテンシャル

コンビナート能力	石油化学コンビナートプロセス全体を運営		<ul style="list-style-type: none"> ■ 石油精製、基礎化学品製造から誘導品・機能性化学品製造までを網羅 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出発原料から機能性化学品まで、コンビナート横断・全体最適での取組により、早期にCO2排出量削減やバイオマスシフト等を実現
	広範な素材・製品を供給		<ul style="list-style-type: none"> ■ 自動車、電子部品、日用品や化粧品等、広範な用途に対応 	<ul style="list-style-type: none"> ■ バイオマスシフト等により、幅広い業界・顧客の脱炭素・低炭素に向けた取組に貢献
	メーカーのみならずエネルギー企業も参画		<ul style="list-style-type: none"> ■ コンビナート企業として電力会社、ガス会社が参画 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電力、ガス、水素といったエネルギー領域の知見・技術を十分に活かし、グリーン化・CO2排出量削減を早期に実現
	隣接地域にR&D機能を保持		<ul style="list-style-type: none"> ■ コンビナート内の複数の企業がR&D組織を四日市に設置 	<ul style="list-style-type: none"> ■ カーボンニュートラル関連技術の実証と事業化を四日市で一貫して推進
立地	中部圏の優位性	周辺産業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自動車、電子部品等を中心とする一大工業地帯 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自動車から日用品用途等まで、様々な企業・組織との連携により、リサイクルチェーンを実現
		港湾	<ul style="list-style-type: none"> ■ 四日市港、名古屋港を有する伊勢湾と隣接 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 水素・アンモニア受入／CO2輸送の拠点候補地
		空港	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中部圏の基幹空港である中部国際空港セントレア 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中部圏におけるSAF製造・使用のサプライチェーンを確立できる可能性
	三重県のバイオマス資源		<ul style="list-style-type: none"> ■ CNF事業等、バイオマス資源や関連事業のポテンシャル有 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 将来のクリーンエネルギー原料やバイオマス化学品原料の調達可能性

第1回四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会

① 開催日時 令和4年3月22日（火）15時30分～17時25分

② 開催場所 四日市商工会議所 3階大会議室
(WEB併用)

③ 構成委員等

会長	三重県知事 一見 勝之		委員長	四日市市長 森 智広	
委員 (18社)	味の素(株)東海事業所 岩谷瓦斯(株) 出光興産(株) 石原産業(株)四日市工場 K Hネオケム(株)四日市工場 コスモ石油(株)四日市製油所 J S R(株)四日市工場	(株) J E R A 四日市火力発電所 昭和四日市石油(株)四日市製油所 第一工業製薬(株)四日市工場 D I C(株)四日市工場 東ソー(株)四日市事業所 東邦ガス(株)四日市工場 日本エア・リキード合同会社		三菱ガス化学(株)四日市工場 三菱ケミカル(株)三重事業所 三菱商事(株) 三菱マテリアル(株)四日市工場	
学識経験者	成城大学経済学部経営学科 教授 平野 創 東北大学大学院環境科学研究科 教授 吉岡 敏明 三重大学大学院工学研究科 准教授 西村 顕				
商工団体	四日市商工会議所				
オブザーバー	経済産業省 中部経済産業局長	国土交通省 中部地方整備局長	四日市港管理組合 経営企画部長		

学識経験者発言要旨

- 本気でC Nを取り組んでいく人たちによる部会の活動が、この委員会を下支えする
- 何か一つでも球出しを早急に実施し、出した企業だけが優遇されることがあってよい
- 行政は公平というが、頑張るところは行政がしっかりとサポートする
- C Nに繋がるのであれば個社の利益で構わない。個社のメリットを取組みのベースにして発展させていくことが重要

三重県知事発言要旨

- 四日市の根幹をなすコンビナートをどうしていくかが大きな課題
- 三重県を支えているコンビナートのあり方を議論しないといけない

四日市市長発言要旨

- 各企業においてC Nの潮流に乗り遅れないように投資しなければならないという危機感を抱いている
- 企業の垣根を越えて、新しい段階に一歩進められるような検討会としたい
- 本市の地域特性に適應する新たな産業に結びつけることができるよう、各社の枠を超えた活発な議論を展開したい

企業発言要旨

- エネルギー・C Nは社運を左右する重要な事柄
- C Nは一社単独で解決を図れるものではなく、各社及び行政と連携して取り組みたい
- 石油化学の集積したコンビナートでSAFを製造することはシナジー効果が得られる
- 四日市は、中部国際空港に隣接しており、大きなポテンシャルがある

第2回四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会

① 開催日時 令和4年7月20日（水）14時00分～16時15分

② 開催場所 四日市商工会議所 3階大会議室
(WEB併用)

③ 構成委員等

会長	三重県知事 一見 勝之		委員長	四日市市長 森 智広		
委員 (20社)	味の素(株)東海事業所	J S R(株)四日市工場	日本エアロジル(株)四日市工場	岩谷瓦斯(株)	(株) J E R A 四日市火力発電所	日本エア・リキード合同会社
	出光興産(株)	昭和四日市石油(株)四日市製油所	三菱ガス化学(株)四日市工場	石原産業(株)四日市工場	第一工業製薬(株)四日市工場	三菱ケミカル(株)三重事業所
	(株) E N E O S マテリアル四日市工場	D I C(株)四日市工場	三菱商事(株)	K H ネオケム(株)四日市工場	東ソー(株)四日市事業所	三菱マテリアル(株)四日市工場
	コスモ石油(株)四日市製油所	東邦ガス(株)四日市工場				
学識経験者	成城大学経済学部経営学科 教授 平野 創 東北大学大学院環境科学研究科 教授 吉岡 敏明 三重大学大学院工学研究科 准教授 西村 顕					
商工団体	四日市商工会議所					
オブザーバー	経済産業省 中部経済産業局長	国土交通省 中部地方整備局長	四日市港管理組合 経営企画部長			

企業等発言要旨

- 水素、アンモニア等をこの四日市コンビナート地区で受け入れる場合は、コストというスタディをコンビナート全体で議論できるのであれば積極的に参加したい
- 2030年～50年国内のSAF需要は多くて500万～1000万KL程度と見込む。コスモ、昭和四日市石油、対岸の出光の3社の製造能力で不足するのは2040年以降
- 5年後までにプラントをどこに建てるといった計画を作りたい。SAF供給ビジネスの流れとしては第一ステップは関東中心、第二ステップは中部や九州になるだろう
- 問題は原料の確保であり、非可食であることが重要。四日市市、三重県が一体となってサポートしていく必要あり
- バイオディーゼルを市や県の車両に使うことがPRに繋がる
- アンモニア利活用はまだポテンシャルがあると思っているので、第3の部会として発足させても良いのではないかと
- カーボンニュートラル関連の事業は必ずコストが上がる。何らかの規制緩和や補助金は必要
- 石原地先の今後の利用方針だが、土地が必要という認識は四港も持っている。さらに時期、面積など、コンビナートと港がともに発展していくか具体的な内容を詰めた

三重県知事発言要旨

- 四日市は、名古屋と大阪に挟まれ、伊勢湾に面しており、地の利を持っている
- 四日市港とコンビナートは一緒になって議論が必要だが、港側にも石炭受け入れをどう変えるかという議論も必要であり、重なる部分と重ならない部分は意識したい
- 本社への説明等が必要な場合は、県や市側も参画し説明する

四日市市長発言要旨

- 各企業からのアイデアが別のアイデアを生むような形もどんどん進んでいく
- 第3の部会も新しい発想で提案していただけることを期待
- 行政の役割を県・市で協力しながら果たしていきたい

学識経験者発言要旨

- 水素・アンモニアの受入れはより具体的に企業間で話を進めていくべき。自家発電等も視野に入れてほしい。
- SAFは、民間の業務用廃食油および行政による回収体制が非常に重要
- 多量の電力を必要とする企業も今回の検討の視野に入れるべき
- 部会は、現時点の見解ではなく、将来に向けた議論・意見交換の場
- 既存概念の殻に留まらずに、新しい戦略を一体となって議論されることを強く期待したい
- 自動車産業を組み合わせることは極めて重要

第3回四日市コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた検討委員会

① 開催日時 令和4年11月11日（金） 14時00分～16時30分 ② 開催場所 四日市商工会議所 3階大会議室

③ 構成委員等

会長	三重県知事 一見勝之		委員長	四日市市長 森智広
委員	味の素(株)東海事業所	J S R(株)四日市工場	日本アエロジル(株)四日市工場	
	岩谷瓦斯(株)	(株) J E R A 四日市火力発電所	日本エア・リキード合同会社	
	出光興産(株)	昭和四日市石油(株)四日市製油所	三菱ガス化学(株)四日市工場	
	石原産業(株)四日市工場	第一工業製薬(株)四日市工場	三菱ケミカル(株)三重事業所	
	(株) E N E O S マテリアル四日市工場	D I C(株)四日市工場	三菱商事(株)	
	K Hネオカム(株)	東ソー(株)四日市事業所	三菱マテリアル(株)四日市工場	
	コスモ石油(株)四日市製油所	東邦ガス(株)四日市工場		
学識経験者	成城大学経済学部経営学科 教授 平野創 東北大学大学院環境科学研究科 教授 吉岡敏明 三重大学大学院工学研究科 准教授 西村顕			
商工団体	四日市商工会議所			
オブザーバー	経済産業省 中部経済産業局長	国土交通省 中部地方整備局長	四日市港管理組合 経営企画部長	

学識経験者発言要旨

- CN化に向けた各取組の中で自治体はどう関与するのが非常に大事
- 行政側の人員や予算は補強を検討してはどうか
- 三重県がどうありたいのか、三重県の将来像としてこんな姿でありたい、四日市コンビナートにこうなってほしいという位置付けが必要
- 各社でできるリサイクルの推進など、カーボンニュートラル化のメニューをいくつも揃えておくというのも、1つのやり方
- 脱炭素化の議論とCN化の議論どちらもバランスを取りながら進める必要がある

三重県知事発言要旨

- コンビナート企業の共同歩調を確保していくことが大切
- 四日市だけで閉じる必要はなく、他県との関係について、愛知県、岐阜県、中部の経済界も一緒になってしっかり議論することは可能
- 三重の北部の交通ネットワークの発展に合わせた他県との連携も今後議論が必要

四日市市長発言要旨

- コンビナートに限らず、三重県、中部圏と連携していくことが課題
- 廃油回収サイクルについて、市としてできることしっかりとやっていき、他の自治体については三重県の力を借りながら、まずは四日市で進めていきたい

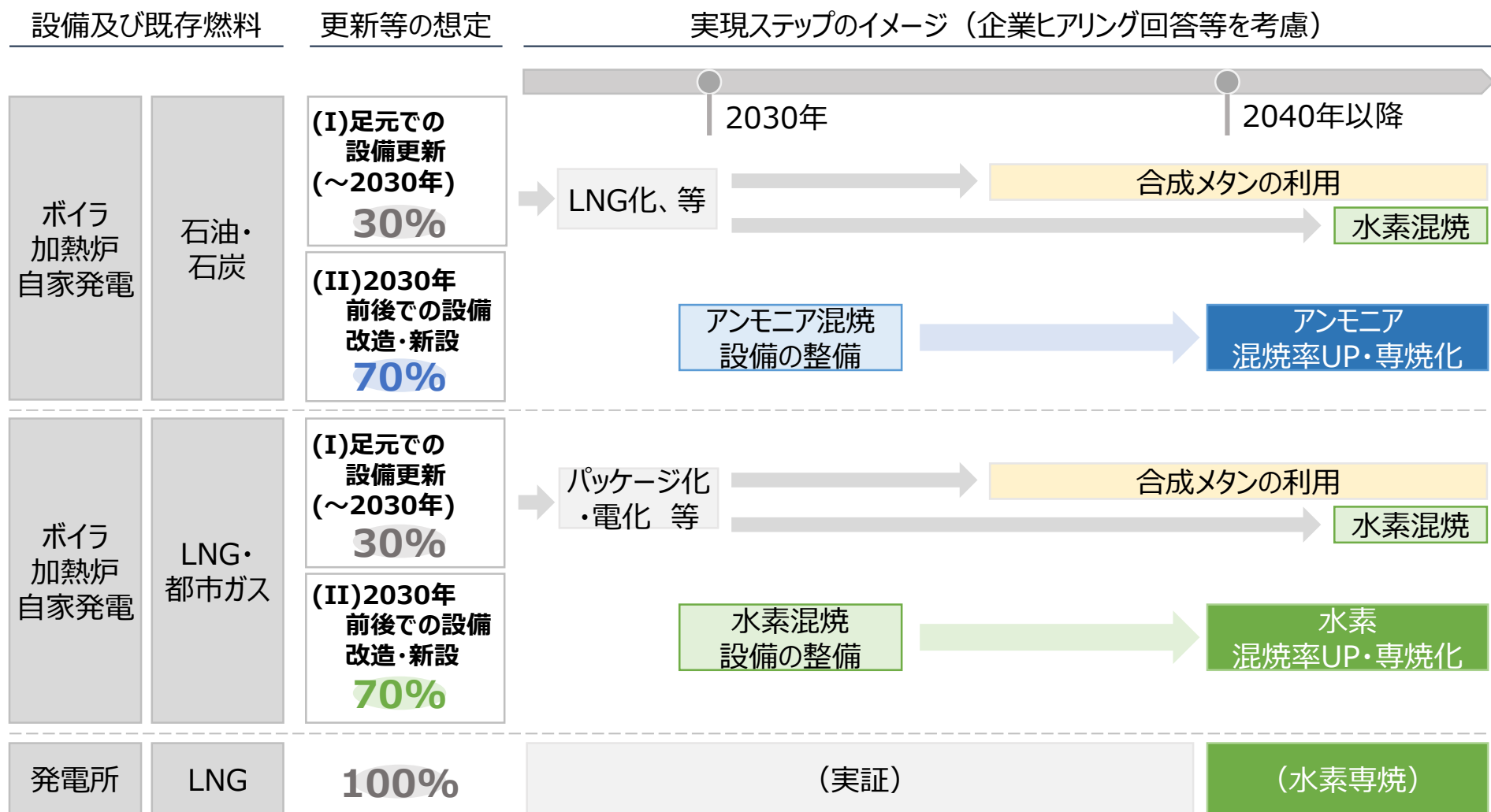
企業発言要旨

- SAF、エネルギー転換、燃料転換、CO2回収など共通性の高いものはコンビナート全体の共通課題として、伊勢湾も含めて考えていく必要あり
- 水素アンモニアの利活用につき、会議体を設けて推進することができればありがたい
- コンビナート地区での需要の集計や必要なインフラ、供給コストにつき、委員会の中で精度を上げた検討が必要
- プラ系の産廃は物流や自動車関係から良いものが得られるため、愛知県とうまく連動すれば、相当数量集まる
- 四日市の特性を活かしたモビリティ面の施策につき検討の余地がある

2つの部会において、具体的な協議を進めてきた

部会名	参加企業・部局	主な対象テーマ	主な協議事項
<p>生産プロセス部会</p> <p>準備会：5/16 第一回：6/10 第二回：7/12 第三回：9/7</p>	<ul style="list-style-type: none"> 味の素株式会社 石原産業株式会社 昭和四日市石油株式会社 東ソー株式会社 三菱ケミカル株式会社 出光興産株式会社 三菱商事株式会社 三重県雇用経済部 四日市市商工農水部工業振興課 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 四日市コンビナートにおけるSAF製造 ■ 副生物として精製する、カーボンフリーな軽質ガス、ナフサ、軽油等を、上流側（石油精製業）から原料として利用 	<ol style="list-style-type: none"> ① SAF製造の原料となる廃食油の回収ポテンシャル ② 実証に向けた用地の候補 ③ 製造に伴い副生するナフサの利活用等における、企業連携や地域連携の可能性 ④ 取組を進めるうえでの各社の課題・目標
<p>副生ガス利活用部会</p> <p>準備会：6/2 第一回：6/29 第二回：9/7 他 アンケート調査実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昭和四日市石油株式会社 K Hネオケム株式会社 東ソー株式会社 東邦ガス株式会社 出光興産株式会社 日本エア・リキード合同会社 三重県雇用経済部 四日市市商工農水部工業振興課 	<ul style="list-style-type: none"> ■ エチレンプラント熱分解工程での燃料をアンモニアとした場合の <ul style="list-style-type: none"> ➢ 深冷工程で発生する余剰メタンの有効利用 ➢ （段階的にアンモニア混焼とした場合の、）発生したCO2の回収後利活用 	<ol style="list-style-type: none"> ① 余剰メタン、回収CO2の、各社での利活用の可能性や条件 ② CO2削減メリット分配の考え方 ③ 取組を進めるうえでの各社の課題・目標

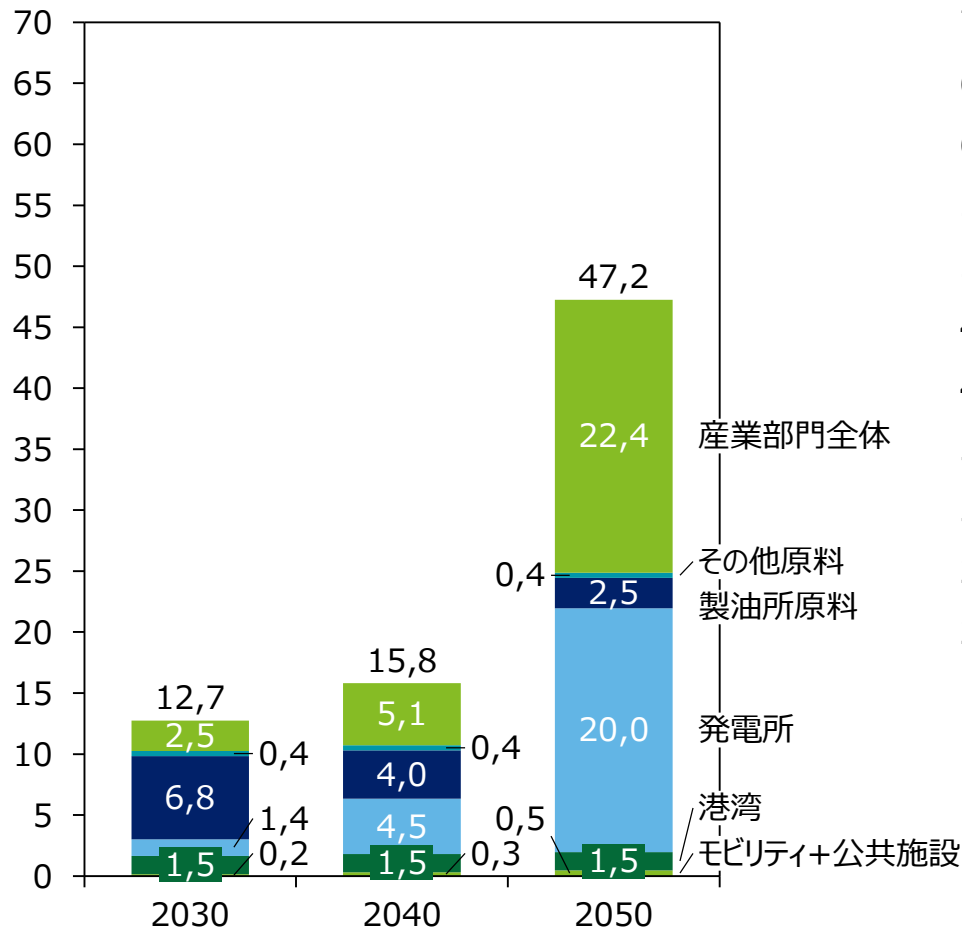
既存燃料種ごとに、水素ないしアンモニアへの転換シナリオを想定した上で
需要見通しの試算を行った



発電所をはじめ、産業エネルギー利用での水素・アンモニア需要が大半を占める

四日市市での水素需要見込み

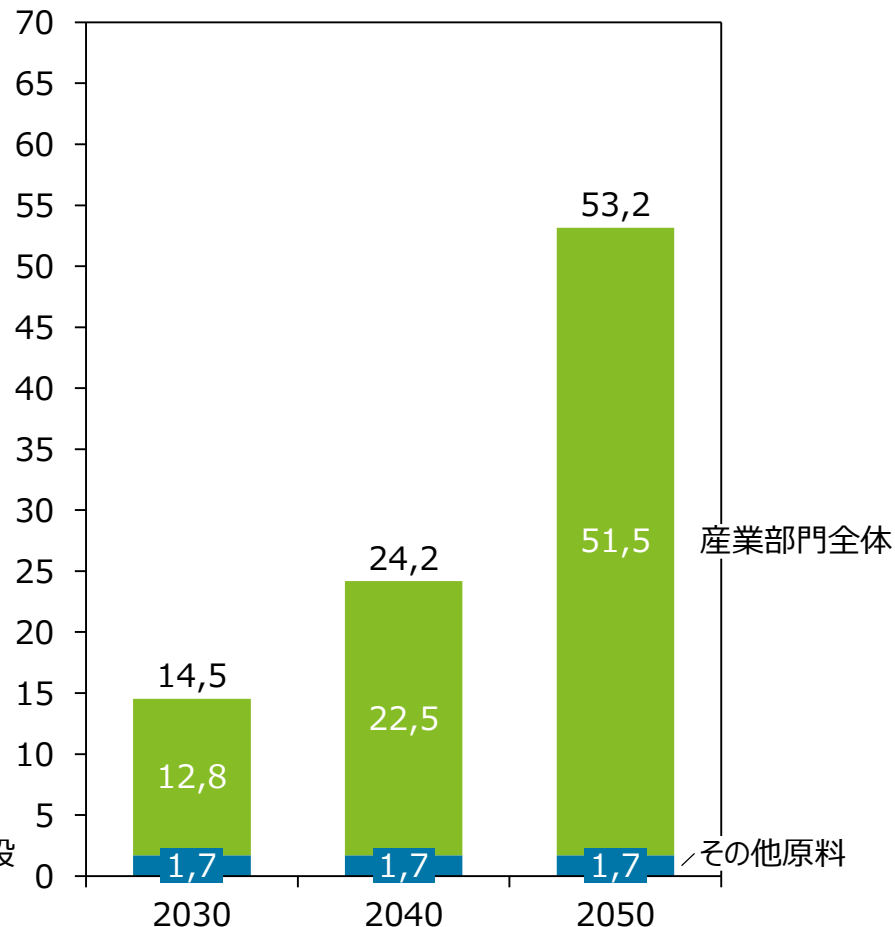
(単位) 万トン-水素/年



(参考) 水素1万トン = 1.11億Nm³

四日市市でのアンモニア需要見込み

(単位) 万トン-アンモニア/年



(参考) アンモニア1万トン ≡ 水素1765トン

四日市コンビナートのカーボンニュートラル実現、産業基盤としての
永続的な維持・発展に向け、官民一体となって取組を進める

目指す姿
の骨子

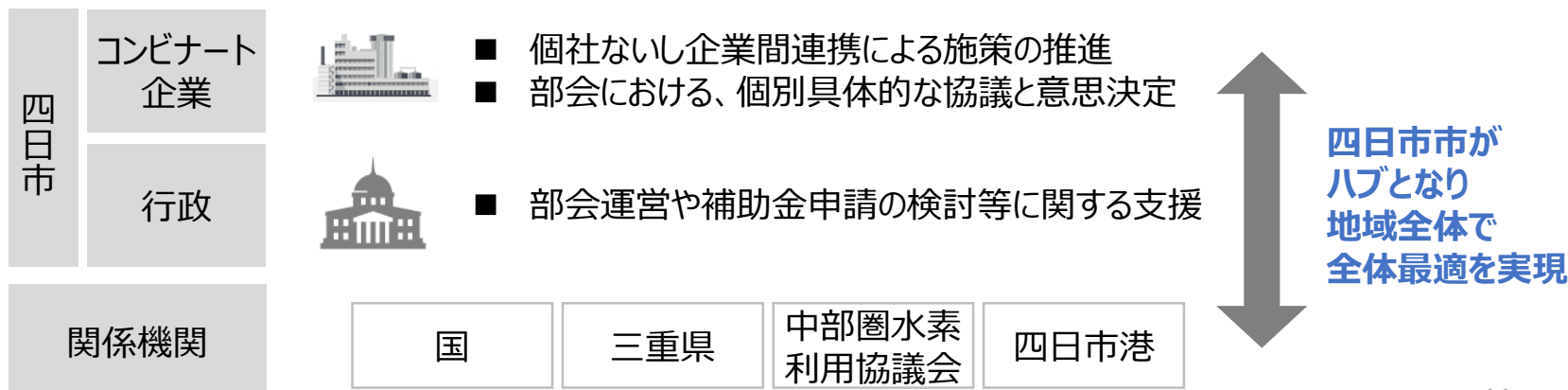
- 四日市臨海部のコンビナート地区が本市の産業基盤として永続的に維持・発展していくためにカーボンニュートラル社会の実現に貢献するコンビナートを目指す
- これから発生する諸課題の解決に向けて想定される様々な投資を呼び込み、新エネルギーの利活用、カーボンニュートラル社会に貢献する素材供給等、新たな産業の芽吹きを生み出す

施策
方向性

2030年・50年の目指す姿実現に向けた基本施策方向性

エネルギーの 脱炭素化・低炭素化		化学品製造プロセスの 脱炭素化・低炭素化			産業集積地の基盤整備 ／産業誘致	
水素・アンモニア 利活用	グリーン電力 へのシフト	リサイクル推進	CO2回収 ・利活用	原料・製品の バイオマスシフト	設備共用化	次世代産業への エネルギー供給 等を通じた支援

推進体制



コンビナート及び地域の特性を活かしつつ、カーボンニュートラル施策を広く推進する

エネルギーの脱炭素化・低炭素化

水素・アンモニアの
輸入・供給拠点化

拠点整備

- 水素・アンモニア輸入受入港(四日市港)としてのインフラ整備
- LNG等を活用したブルー水素製造・供給
- 隣接する他地域(三重県北勢地域の他産業拠点)への供給拠点化

利活用

- 火力自家発電設備の水素・アンモニア混焼の促進
- 水素・アンモニアの産業部門ボイラーでの活用
- ナフサ分解炉における燃料アンモニア利用

化学品製造プロセスの脱炭素化・低炭素化

原料・製品のバイオマスシフト

- バイオナフサ等の利用によるバイオマス由来化学品の供給
- 藻類からのバイオ原料製造

CO2回収・利用

- CO2分離・回収・輸送設備の開発と運営
- CCS適地へのCO2運搬可能性を検討
- LNG等を活用したブルー水素製造時CO2回収

SAF製造・副生ガス利用等

SAF

- 廃食油等を活用したSAF製造体制の整備と運営

副生ガス

- SAF製造時副生ガスの原料利用
- 発電時排ガスの原料・熱利用
- 副生メタンの有効活用

リサイクル推進

次世代リサイクル技術の確立と運営

- ケミカルリサイクルの推進(ポリスチレン、PET他プラスチック樹脂の再利用、等)
- 廃油等を活用したRD製造
- 廃車資源の再利用・有効活用(タイヤ回収、油化等)

企業と行政の連携

- 廃プラスチックの回収ルート、リサイクルスキームの構築

産業集積地の基盤整備/産業誘致

コンビナート設備の共有化

電力・熱

- 発電設備の共同運営・共有化(水素・アンモニア混焼、バイオマス発電等)
- 熱・蒸気供給設備(ボイラー、コージェネ等)の共有化

水素・アンモニア

- 水素・アンモニアの受入設備/輸送・貯蔵設備(パイプライン等)の共用化

次世代水素モビリティの展開


事業立ち上げ・拡大

- FCV(燃料電池車)を軸に、水素モビリティ事業を、四日市や周辺地域で展開

四日市コンビナートや周辺地域の特性を活かしたカーボンニュートラルを推進



コンビナートエリア内外において資源を補完し支え合う

コンビナートエリア外

 市内・県内のみならず
中部圏エリアにおける
廃プラスチック・廃食油等を活用



 バイオマス資源を利用

エネルギーの
クリーン化に向けた連携

CO2フリー電気による内陸部工業
団地に立地する大規模工場等の
電源の脱炭素化


クリーンモビリティ等の
次世代産業との連携

合成燃料の供給 グリーン・ブルー水素
の供給

 廃食油やバイオマスの移入・輸入



 再資源化した素材由来の
原料・製品の製造
(カーボンニュートラル素材の供給)




① 資源循環拠点

 合成燃料・SAFの製造


② 廃プラスチック等の炭素循環の拠点

③ 新エネルギー由来電力の共用化

 排出されるCO2の回収・利用
回収したCO2の運搬



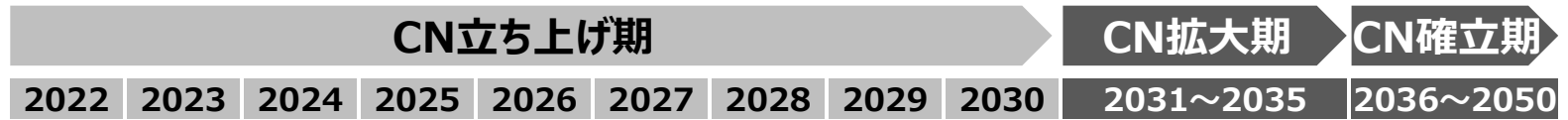
コンビナートエリア

 水素・アンモニア等の
受入・製造・供給



回収した
CO2の貯蔵

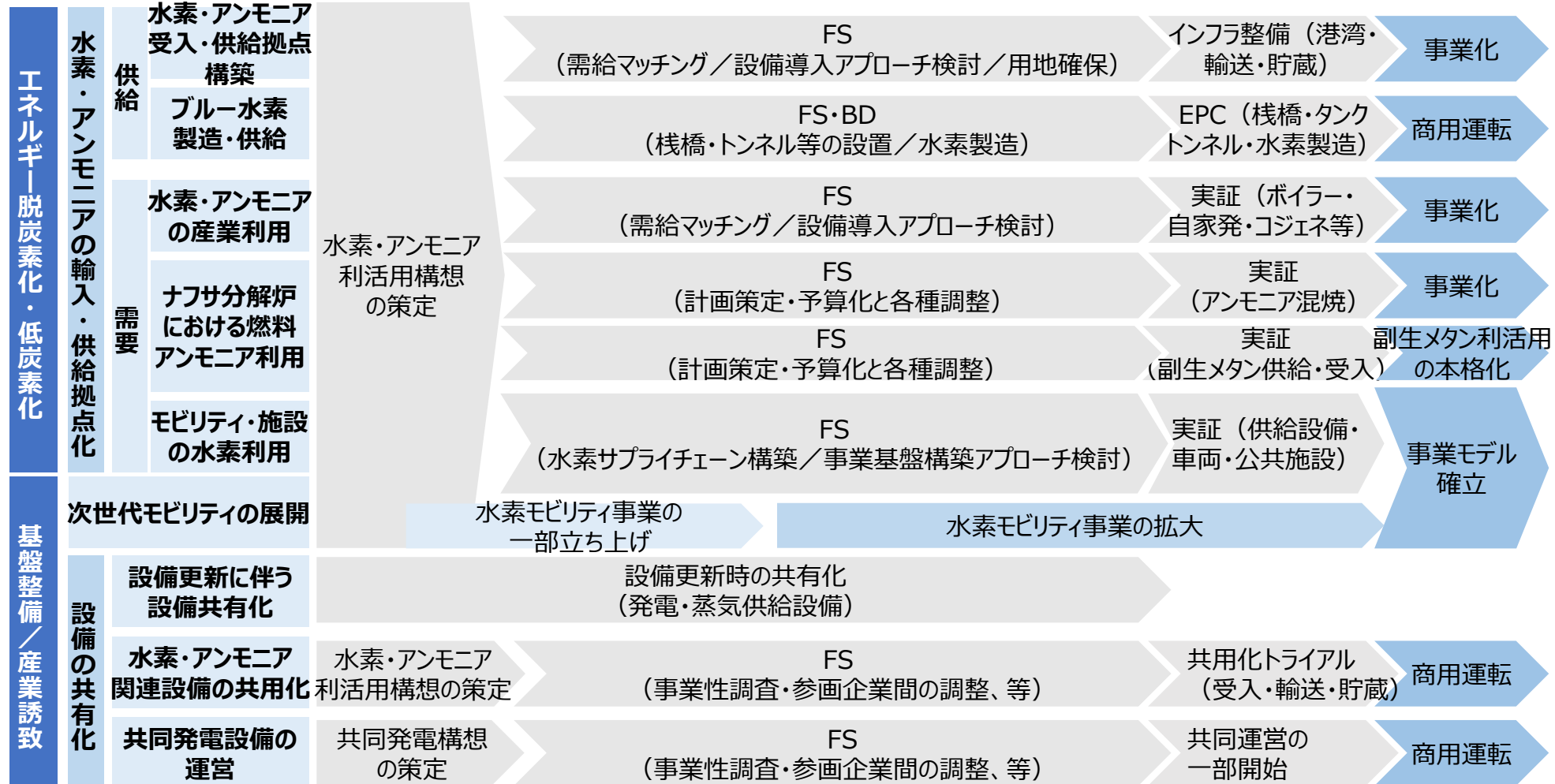
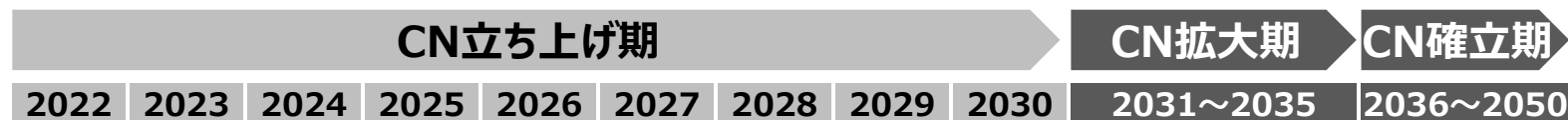
一部リサイクルの立ち上げ・拡大を先行させつつ、次世代技術開発・実証及び事業化を着実に推進していく



（注）研究開発：基礎研究中心 / 技術実証：基礎研究に加え、製造設備の実証や事業性評価等を想定

直近2年程度で、水素・アンモニア利活用に関する構想を取りまとめ、コンビナート全体としてのエネルギーシフトを段階的かつ着実に進めていく

資料1
グランドデザイン



企業ヒアリングの結果を基に、今後取組むべき事項や方向性を取りまとめた。これらを着実に実行すべく、企業・行政・関係機関との連携を円滑に推進していく



- **カーボンニュートラルに必要な「新技術の研究開発や実証」を更に加速**
 - 推進上のボトルネックを見極め、早急に対処（必要に応じて他企業や行政と協議）
- **資金制約を解消すべく、補助金制度活用を積極的かつ具体的に検討**
- **「カーボンニュートラル化に向けた関連施策や実証等の実施」に伴う情報連携**
 - 新しい取組を推進される場合には、可能な限り情報を共有頂きたい
- **プロジェクト創出に向けた他企業との連携強化及びFSの実施**
 - 前述の「今後の取組メニュー案」等も踏まえて、コンビナート内の各企業との協力・連携を、個別具体的に推進
- **企業又は行政との連携による実証事業への展開を見据えた協議**
- **四日市コンビナートの競争力強化に向けた、更なる施策の具体化や本社への働きかけ**
 - 本社への働きかけの際は、トピックを明確にし、必要に応じて行政も巻き込む

各種連携強化や制度活用の支援

- **関連情報の提供や各種連携の促進**
 - 国の各種基金・補助金制度等の情報提供
 - コンビナートのカーボンニュートラル化に向けた具体的な取り組み事例等の紹介
 - 企業間連携の促進に向けた各種取組・枠組みの更なる推進やニーズ把握
 - 中部圏を含めたコンビナート外との地域間連携・取組の推進
- **カーボンニュートラル化に向けた各種支援策の実施**
 - 新たな設備投資に対する支援制度、実証実施に向けた調査等の費用や取り纏めの支援
 - 必要なインフラや土地、周辺環境の整備
- **規制の合理化**
 - 水素・アンモニア等の利用やその他設備投資に関連する規制の見直しや合理化

具体的な仕組みの構築・整備

- **サーキュラーエコノミーに向けたシステムの構築**
 - 各有価物（廃プラスチック類、廃油、食品トレー等）の回収・分別・製品化ルートの構築等
 - 地域の特性を活かした循環型社会の構築
- **実証に向けたモデル地区の整備**
 - 廃食油回収等の実証・実装にむけた実証モデル地区等設置
- **住民等への普及啓発・理解促進**
 - 水素等の新エネルギーに関する普及啓発
 - カーボンニュートラル製品の製造に関するコスト面での社会的変容を促す
 - カーボンニュートラルへの対応や循環型社会形成に関する教育の実施
- **事業主体としての新エネルギーの利活用**
 - 公共施設や行政所有車両、再開発地区の脱炭素化等への水素の利活用